

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■令和5年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・上下水道管路の効率的な改築・点検調査に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・下水道管路と水道管路との点検方法・劣化要因の違い等についての知見を収集するにあたっては、上水道・下水道を効率的に維持管理する既存技術やグッドプラクティスの情報も収集する。
- ・改築・点検調査の優先度を決定する手法を検討するにあたっては、水道管路及び下水道管路の劣化度の予測結果だけでなく、社会的影響度も考慮する。
- ・上下水道一体となった効率的な改築・点検調査のための計画策定方策を検討するにあたっては、より多くの地方公共団体が活用できる方法となるように留意する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・土石流・土砂流による2次元河床変動計算等による細やかなリスク情報に基づく情報提供手法に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・土石流や土砂流のリスク評価手法のとりまとめにあたっては、その精度的な限界や情報の受け取られ方にも十分に留意し、誤解のない情報伝達ができる手法となるよう注意するとともに、普及にあたっては、必要に応じて地方自治体等に意見照会する等の対応を、本省とよく相談の上、取って参りたい。
- ・人家のみでなく、橋梁や道路等その他の構造物についても、氾濫範囲に大きく影響すると考えられる場合には、その影響を考慮したリスク評価手法とすることを目指したい。
- ・土砂のみでなく、流木についても、氾濫範囲に大きく影響すると考えられる場合には、その影響を考慮したリスク評価手法とすることを目指したい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・中山間地における降雨観測精度の高度化のための画像雨量計の開発（終了時評価）

評価結果を踏まえ、引き続き推定精度の向上に努めるとともに、地上・レーダ雨量計や流砂量計など他の情報と組み合わせることにより、流域監視を高度化する手法について検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・リモートセンシング技術を統合活用した効率的な災害調査手法に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、今回の研究成果の普遍性を災害事例を増やすことで確認するとともに、発災直後の土砂移動箇所の把握についてより迅速化、より正確性高い方向に改善する手法を検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和5年度 第2回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・港湾施設の重要性を勘案したリスク概念の港湾技術基準への導入に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・港湾施設の重要性を示す指標として、荷役稼働率以外の指標についても研究の中で議論を深めたい。
- ・本研究成果が、効率的・効果的な港湾整備や維持管理に幅広く活用されることを意識し、研究の実施にあたっては現場との十分な議論を行ったうえで検討を進めたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和5年度 第3回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・空家の適切な管理と有効活用の促進に資する構造性能評価技術の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・被災リスクの推定法の検討では、建築の専門知識をもたない行政担当者であっても、主観的な判断に依存せず、空家の被災リスク（構造性能）の実況を適切かつ簡易に推定できる方法を整備できるよう、その根拠となるシミュレーションを効率よく進める。また、敷地外への影響度評価の観点も加えた推定手法を整備できるよう留意する。
- ・補強・改修法適用に関する検討では、構造性能が不十分であって維持や補強が合理的ではない空家を簡易に把握できるよう留意しながら検討を進める。
- ・研究全般について、空家対策に先進的、積極的な地方自治体の取り組みも参考にして検討を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・ **建築火災時の避難弱者の行動特性に基づく避難安全設計に関する研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ 避難弱者が安全に避難する上で、健常者（介助者）のサポートは必要不可欠であり、健常者（介助者）がとるべき行動、とるべきでない行動についても検討する。
- ・ バリアフリー法の対象である「高齢者、障害者等」を整理し、本研究で扱う避難弱者の位置づけ（定義）を明確にした上で、研究を進める。
- ・ 本研究の対象外とした避難弱者についても、将来的に段階的に同様の検討ができるよう、共通の考え方となるような枠組みを念頭に置いて研究を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

※ バリアフリー法では、対象者を「高齢者、障害者等」として“高齢者又は障害者で日常生活又は社会生活に身体の機能上の制限を受ける者、その他日常生活又は社会生活に身体の機能上の制限を受ける者”と定義されている。なお、障害者については、「身体障害者」、「知的障害者」、「精神障害者」、「発達障害者」が含まれる。また、明確な定義はないが、その他に妊産婦、児童・乳幼児、けが人が含まれる。

本研究では、この内、避難時に階段を使用して避難することが困難な者として、高齢者、身体障害者、妊産婦、けが人を対象として研究を進める予定である。

・ **民間賃貸住宅ストックの活用を考慮した公営住宅供給目標量の設定手法に関する研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ 都道府県単位から市町村や生活圈単位に細分化するにあたり、ニーズの見える化を並行して進めることで、民間賃貸の登録や供給の動機付けにもつながるよう、検討を進める。
- ・ 民間賃貸住宅の住宅 SN としての利用の推進に向けては、数が充足することのみに着目するのではなく、住宅 SN による支援を要する世帯が入れる住宅が少ないという問題を改善するという観点も踏まえ、住宅 SN としての利用に関する大家の意向やその理由等についても配慮して検討を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・ **新技術を活用した都市の緑の効果的な計測手法及び評価手法に関する研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ 住民の健康状態に関連する緑豊かで歩きたくなるような歩行者空間の評価に向けて、緑のつながりやまとまりをどのように緑視率と関連付けて評価できるかについて検討する。
- ・ 緑の評価について、緑の質や市街地特性（住宅地／商業地／工業地、密集市街地／計画的市街地など）に応じた緑の価値が適切に評価できるように検討する。
- ・ 本研究で開発するシステムの活用について、地方公共団体の緑地整備や住宅等の敷地内のエクステリア設計を行う際などの多方面での利用の例示を検討する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。